

科目名	情報と言語教育			ナンバリング	ICT252	授業形態	講義
対象学年	3	開講時期	前期	科目分類	選択	単位数	2単位
代表教員	玉懸元	担当教員					

授業の概要	<p>現代の言語教育では、ICT(ここではテープレコーダー等まで含めて言語教育に役立つ様々な「機器」を意味する)の活用が欠かせないものとなっている。この授業は、次の①～③について学び、考えることを目的とする。</p> <p>①現代の言語教育(特に日本語教育。以下同じ)の現場がどのようなものであるかを学ぶ。</p> <p>②言語教育の歴史においてICTがどう活用されてきたかを学ぶ。</p> <p>③この①と②の知見を得た後、今後の言語教育の現場でどのようにICTを活用するかを考える。</p> <p>(※)なお、この科目の受講生には、日本語教員の資格取得希望者を想定している。</p>
到達目標	<p>(1) 現代の言語教育の現場がどのようなものであるかを説明できる。</p> <p>(2) 言語教育の歴史においてICTがどう活用されてきたかを説明できる。</p> <p>(3) 今後の言語教育の現場におけるICTの活用法について、自身のアイデアを出すことができる。</p>
学習のアドバイス (勉強方法、履修に必要な予備知識など)	<ul style="list-style-type: none"> ・「日本語教育文法」「日本語学習アドバイジング」を履修しておくこと。また、「日本語教育法1」を履修することが望ましい。 ・授業時間中に受講生同士で議論する時間を設ける。積極的に意見を交わしてもらいたい。 ・授業時間中には、ここに示した参考書以外にも、授業内容の理解や発展的考察に役立つ文献等を多数紹介する。受講者それぞれ、自学に活用してほしい。
ディプロマポリシーとの 関連	【教養学部 地域教養学科のディプロマポリシー】
	1. 専攻分野それぞれの基礎的な知識を確実に身につけ、それらを活用して基本的な問題を解決することができる。
	2. 専攻分野それぞれの基本的スキルを、地域社会に貢献するために活用することができる。
	○ 3. 自分の意見や考えを説明し、他者と協調して積極的にコミュニケーションをとることができる。
	○ 4. 広い視野と論理的・批判的思考力を身につけ、困難な課題や予測不能な事態に直面しても適切に対処することができる。
	○ 5. 社会の一員としての自覚を持ち、社会生活の場において、地域を支える社会人・職業人としてふさわしい関心・意欲・態度を示すことができる。

標準的な到達レベル(合格ライン)の目安	理想的な到達レベルの目安
<p>(1) 授業で課されるすべての課題に真摯に取り組み、提出すべきものを提出している。</p> <p>(2) 現代の言語教育の現場がどのようなものであるかを説明できる。</p> <p>(3) 言語教育の歴史においてICTがどう活用されてきたかを説明できる。</p>	<p>(1) 毎回の授業において発言の回数等から意欲・関心が認められ、すべての課題に真摯に取り組み、提出すべきものを提出している。</p> <p>(2) 現代の言語教育の現場がどのようなものであるかを説明できる。</p> <p>(3) 言語教育の歴史においてICTがどう活用されてきたかを説明できる。</p> <p>(4) 今後の言語教育の現場におけるICTの活用法について、自身のアイデアを出すことができる。</p>

評価方法	成績評価観点						評価割合
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	
定期試験(中間・期末試験)							
小テスト・授業内レポート	○	○			○		60%
宿題・授業外レポート	○	○			○		20%
授業態度・授業への参加		○	○	○			20%

課題、評価のフィードバック	<p>原則として毎時間、授業の終わりに、当日の授業内容に関連する課題を提出してもらい、授業後、提出された課題から、クラス全体で共有しておくことが有益と考えられるものを選出する。翌週(原則)の授業で、選出していただいた課題を適宜プロジェクター等も活用しながらクラス全体に紹介し、教員のコメントを加える。以上をもって課題に対するフィードバックとする。</p>
---------------	---

	回次	テーマ	授業内容	備考
授業計画	第1回	ガイダンス	この科目全体についてガイダンスを行う。	
	第2回	言語教育の現場(1) 日本語教科書	日本語を外国語として学ぶ外国人(正確には非日本語母語話者)を対象とした日本語教科書について学ぶ。	
	第3回	言語教育の現場(2) 教案の作成	教科書に基づいて日本語教員が作成する「教案」について学ぶ。	
	第4回	言語教育の現場(3) 教材・教具の準備	教案に基づいて日本語教員が準備する「教材・教具」について学ぶ。	
	第5回	言語教育の現場(4) 授業の実践例①	一般的な日本語教室における授業の進め方について学ぶ。	
	第6回	言語教育の現場(5) 授業の実践例②	前回に続き、一般的な日本語教室における授業の進め方について学ぶ。	
	第7回	言語教育におけるICT活用事例(1) 文献講読①	言語教育におけるICT活用事例に関する文献を精読する。	
	第8回	言語教育におけるICT活用事例(2) 文献講読②	前回に続き、言語教育におけるICT活用事例に関する文献を精読する。	
	第9回	言語教育におけるICT活用事例(3) 文献講読③	前回に続き、言語教育におけるICT活用事例に関する文献を精読する。	
	第10回	言語教育におけるICT活用事例(4) 文献講読④	前回に続き、言語教育におけるICT活用事例に関する文献を精読する。	
	第11回	これからの言語教育におけるICT活用(1) ディスカッション①	日本語教育の現場において、どのようなICT活用が考えられるか。前回までの授業内容を活かし、討論する。	
	第12回	これからの言語教育におけるICT活用(2) ディスカッション②	前回に続き、日本語教育の現場において、どのようなICT活用が考えられるか。前回までの授業内容を活かし、討論する。	
	第13回	これからの言語教育におけるICT活用(3) プレゼンテーション①	前回に続き、日本語教育の現場において、どのようなICT活用が考えられるか。前回までの授業内容を活かし、討論する。	
	第14回	これからの言語教育におけるICT活用(4) プレゼンテーション②	前回に続き、日本語教育の現場において、どのようなICT活用が考えられるか。前回までの授業内容を活かし、討論する。	
	第15回	まとめと試験	第1回～第14回の授業を振り返り、この授業で学んだことをまとめる。また、その理解度を問うための試験を行う。	
		試験	定期試験は行わない。	
授業の進め方		原則として講義形式。文献講読やディスカッションも行う。適宜、授業内で小テスト、授業外で宿題を課す。		
授業外学習の指示		参考書を活用しながら、各回の授業内容について予習・復習を行うこと。 (授業外学習時間: 毎週 180 分)		

教科書	適宜、資料を配付する。
参考書	吉岡英幸／本田弘之編(2016)『日本語教材研究の視点 新しい教材研究論の確立をめざして』くろしお出版 その他、授業中に指示する。
参考URLなど	授業中に指示する。
その他	